

区側	<p>[資料の確認および出席者の確認]</p> <p>本日は、梶田委員、根上委員、花谷委員の3名が欠席である。</p>
会長	<p>[会議の公開について]</p> <p>異議なしのため、4名の傍聴者の入室を許可する。</p>
会長	<p>[会議録（案）について]</p> <p>事前に事務局より第7回目黒区長期計画審議会会議録を送付しているが、修正・質問等はあるか。</p> <p>異議なしのため、こちらで確定とする。</p>
区側	<p>[第7回長期計画審議会における行政分野別審議のまとめ]</p> <p>※資料1を説明</p>
会長	<p>資料について質問・意見等はあるか。</p> <p>後ほどでも構わないがいかがか。</p> <p>ご意見がないためひとまず先に進めたい。</p>
副会長	<p>[第2回長期計画審議会小委員会の報告について]</p> <p>※資料2を説明</p>
会長	<p>ご意見をいただきたい。</p> <p>特になければ次に進める。</p> <p>会議録の会議の結果、及び主要な発言を踏まえて、中間まとめにしたい。議論の要望や反映に対しての意見も含めて、しっかり作りこめる機会にしたい。</p>
区側	<p>[新たな長期計画の体系案の検討について]</p> <p>※資料3を説明</p>
会長	<p>今回の基本構想、長期計画の中で体系を位置づけるということは重要な項目の一つだと思う。事務局から説明があったが、多くの自治体がやっているから同じようにするという事ではない。計画の立て方としてどのようなフェーズを作っていくか、より意味のある行政につながっていくかという検討の結果だと思っている。</p> <p>ご質問、ご意見を頂きたい。</p>
委員	<p>これまでの審議会でも5年後、10年後ということで検討していたが、</p>

<p>会長</p>	<p>20 年後という想定を審議会ではしていなかった。 社会状況の変化が早い中で、20 年の構想でよいのかどうか感じている。</p> <p>IT 化などが急速に発展し、20 年先の技術予測は可能かもしれない。例えば技術発展の側からみれば、社会が大きく変化するのかもしれないが、まちづくりで考えると、20 年先というのは相当先の話であると考えている。そのため、まちづくりで目指すべき 20 年後のビジョンは、具体的と言うよりは抽象的で、20 年後に向けて積み上げていくものは様々であるが、居心地のよいまちにしていくための方向性を外れないためのものであると思っている。</p>
<p>区側</p>	<p>20 年先の未来を描くのは難しいとは思う。</p> <p>ひとつは、行政の計画スパンが非常に長いものもあるため、その方向性を示すと言うことで、基本計画を幹とすると、基本構想をそれよりも長い 20 年としている。</p> <p>昨今の状況としては、2040 年が行政や国の一つの区切りとなっている。2020 年からの 20 年をどうみるかという考え方を示すということが大事なことと考え、設定した。</p>
<p>会長</p>	<p>2040 年が人口減などでターニングポイントとされている。目黒が今のように良いまちとして、引き続き発展・持続していくと期待している。そのための施策が今後展開されることによってまちが維持される。荒廃や住みにくいまちにならないよう、今回の基本構想の中に示されることを期待している。技術が変われば、20 年後の抜本的な変化もありうるかもしれない。</p> <p>まちづくりは区民が主体となり、行政が制度を整え、計画を作っていければと考えている。</p>
<p>委員</p>	<p>審議会では 5 年後、10 年後しか話していない。基本構想の 20 年後の未来のことは議論していないが、どうやって策定していくのか。</p>
<p>区側</p>	<p>基本構想自体は区の方で作成することとなるが、今後は、中間のまとめで確認してもらった政策分野ごとの将来像を踏まえて、そこからいくつかの幹を導き出して、その幹を基本目標として審議会の中で取りまとめていくこととなる。その過程で、20 年後の姿がイメージでき</p>

	<p>ればと思っている。</p>
委員	<p>長期計画審議会なので、20年後の未来についてもこの審議会で話し合いたかった。今後も引き続き議論したい。</p>
会長	<p>どんなレガシーを残すか。20年後の抽象的な議論をする場合、日頃からそうした時代を見据えている方々と議論しないと、総じて收拾がつかない、言いつ放しになってしまうことが多い。一般の方の意見を吸いあげて、取りまとめていきたい。</p>
委員	<p>大きなビジョンを作るときに、区民が主体になっていくということを考えると、子供たちに20年後のまちの姿について意見を出していただくことができればよかったのではないかな。</p> <p>どんな目黒区にしたいか、若い区民や小・中学生の意見をどこかで拾い上げていくことが重要ではないか。</p>
委員	<p>目黒区のよさの中に平和都市宣言、平和祈念の集いということで広島へ子供たちを派遣しているの、そうした人たちに対して20年後をイメージしてもらえるとよいと思う。</p> <p>戦争を知っている人がいなくなるので、語り部などそういう方々に戦争の話を引き継いでもらうことが必要だろう。</p> <p>こうした検討について、区長と区民のまちづくり懇談会があるが、これと関連づけられないのか。</p>
区側	<p>昨年開催したまちづくり懇談会について、今般の基本構想の改定について、決定した基本方針を説明し、意見交換をしたところである。その中では、基本構想に直接つながるような意見はあまりなかった。</p>
会長	<p>引き続き、区民と区長のコミュニケーションが継続されるとよいということだと思う。残しておきたいこととして、広島への派遣など、平和都市宣言が継続されるようなまちであってほしいということも基本構想の中に入っているのは大事なことである。</p>
委員	<p>意見そのものが20年後の基本構想に繋がる気がする。一般区民、若い区民の声を反映される区政というのが20年後にあるべき姿の一つだろう。</p>

	<p>学校現場での経験上、子どもたちは目の前のことに一喜一憂するものの、20年後を見通すという視点をもつことが難しい。若い区民が積極的に区政に参加したいと感じるまちになっていくことが、基本構想の根底であり、どのようになりたいかを打ち出す必要がある。</p>
<p>会長</p>	<p>皆さんもそのような意見をお持ちだと思います。</p>
<p>区側</p>	<p>[中間のまとめ作成に当たっての政策分野の整理について] ※資料4の説明</p>
<p>会長</p>	<p>中間のまとめは、これまで政策分野ごとに議論してきたが、もう一度政策レベルとして組み分け、現状の部署ごとの縦割りではなく、横串も意識してまとめたものとなっている。</p>
<p>委員</p>	<p>10番の高齢福祉・障害福祉・生活困窮の一番下に、20番の生活の安定と自立支援があるが、全体的に関わってくる包括的な相談支援が10番だけに入ってくることには違和感がある。</p>
<p>区側</p>	<p>[新たな基本構想に関する審議の中間のまとめ（案）について] ※資料5修正を説明</p>
<p>委員</p>	<p>基本構想20年という大きなくくりで考えていく中で、そこに向かっていくゴール、目黒とはどんな目黒であるべきか、ありたいか、ということが今ひとつ見えない気がする。</p> <p>基本構想に向かって、基本計画、実施計画をどのような価値観をもって作っていくかが非常に重要になる。例えば渋谷区ではゴールを多様性とインクルーシブを基本構想の将来像に定め、そこに向かって基本計画を作っている。ここにある基本構想はありきたり内容と感じる。どういう目黒なのか、どうしたいのか、目黒らしさが見えるとよい。</p>
<p>区側</p>	<p>施策単位に落とし込むと、自治体の施策としては共通なものも多いという現実はあると思う。</p> <p>しかしながら、その中で目黒らしさを出すことは事務局としても課題となっている。今後の審議会で見直しを、政策の幹を考えてい</p>

	<p>く中で、目黒の将来像に繋がるような検討をしていきたいと考えているところである。いくつか事例を出し、検討してもらえるようにしたい。</p>
<p>会長</p>	<p>中間のまとめの最終ページ、目黒の将来像、キャッチフレーズがある。ここで目黒らしさを表すということになるので、意見募集を踏まえて検討してければよいのではないか。</p> <p>目黒にとって何がよいことか議論していき、よい言葉があれば議論したいと思う。</p>
<p>委員</p>	<p>最初に大きなビジョンがあって、その下に目標があって、そこからさらに細分化して政策を考えていくというブレイクダウン方式が一般的であると思われる。</p> <p>行政の分野ごとに検討していて、ボトムアップ方式であったと感じる。</p>
<p>会長</p>	<p>トップダウン方式とボトムアップ方式があるが、今の生活の中で大切なことや必要な変化を意識してもらうほうがイメージしやすい。身近な課題から検討を積み上げるボトムアップ方式とする方が総じて適切な議論になりやすいため、この方式で議論を進めてきた。</p>
<p>委員</p>	<p>最近「目黒の」という枕詞がつくと、虐待の問題など、胸が痛い問題がある。一方で、そういうことが他人事的になっているようにも感じる。個人的には、それを乗り越えたいということが頭の中に浮かんでいる。</p> <p>子どもに対しても、大人同士、高齢者、障害をもった方に対しても、きれいごとではなく、もっとお互いが近い存在であることが分かる言葉があればよいと思う。</p>
<p>会長</p>	<p>それを短い言葉でまとめられるとよいだろう。最終的なとりまとめまでにいい言葉を考えてもらいたい。</p>
<p>委員</p>	<p>『思いやりあふれる多彩で元気な目黒』はどうか。</p> <p>インクルーシブという英語は意味が分かりづらい。今の流行だと多様性という言葉があるが、何でもありなのかとも思ってしまう。マイナスのイメージにも捉えられることもある。</p>

委員

今回の計画の作り方として、行政レベルでものを考え、そこから落とし込んでいったというイメージが強い。反対からの見方としてどういう目黒でありたいかということ为先にした方が良かったのではないかと思った。

作っていく目標が小さくなっていく傾向があるので、目黒らしいキャッチフレーズを考えて、そこから落とし込んでいくべきではなかったのかと感じる。

委員

目黒区、地域のコミュニケーションが見えてくるまちづくりが望ましい。コミュニケーションがよいところは、あたたかい地域であると感じる。そういうような思いやりのある目黒区が全体に広がれば、防犯・防災にも効果があると感じる。

委員

虐待としつけ、どの辺が境目なのかということと、もうひとつは先生方の体罰、体育会育ちなので愛の鞭と体罰はどう違うのかがはっきりしない。

もうひとつ、目黒区の良さは商店街がわりと活性化してきていることだろう。自由が丘の商店街が浅草とコラボして、最近では点灯式があったが、非常によかったので目黒区からもっとフォローしたほうがよいのではないか。

最後に教育委員会等が福祉に力を入れて教材を作ったが、4年生ではなくてもう少し低学年への教育が必要と考えている。

委員

中間報告を読むなかで、スポーツの部分がまだまだ足りないのではないかと思う。

今週末に4回目のシティランが開催される。回を増すごとに盛り上りを見せており、こうしたイベントにより、目黒区全体がスポーツを通じて繋がることのできる場面が増えるとよいだろう。

委員

現状の目黒でいうと、平和都市宣言めぐろが一つの特徴だと思う。

小委員会について、「子育て分野について子どもの権利・主体性を考慮すると、子育てという表現があってもよいと思うがいかがか。」という文言があるが、今後IT化が進むと人と人とのつながりの希薄化が懸念される。人間関係が立ち切れたことから事件が発生していることを踏まえ、親が子どもをしつけという名で虐待することが主の原

	<p>困であることを考えると、大人が子供を育てるという視点ではなく、子育てをしながら親子が互いに育つということで、「育ちあい」という視点が重要であると考えている。高齢者福祉であれば、お世話をしあげるというのではなく、お互いに助け合う、人生を豊かにするという対等な人間関係となればよい。</p> <p>また、平和と人間性を大切に目黒であってほしい。</p>
委員	<p>東京都全体の産業展では、目黒区から新しく3社、既存の企業が新事業を始めたことで出展した。</p> <p>こうした新事業を展開するのは2代目、3代目であり、目黒の産業が変わっていくことに期待してほしい。</p> <p>長期計画が区民の皆さんに十分にわかるような仕組みがあればよいのではないかと思う。</p>
委員	<p>全ての根幹には平和であることが重要だろうと思う。社会的平和や自らの豊かさ、また、最近の高齢化では健康ということであると思われる。</p> <p>戦争の記憶が風化するという懸念がある一方で、世界では戦争が繰り返されており、国内で戦争がなければ平和なのかということも考えなくてはならない。</p> <p>また、物理的な戦争だけでなく、見えないものに気づかさず生活を脅かされているということも考える必要があり、目に見えないものを恐れて生活しなくてはならないことを払拭する必要があるだろう。</p> <p>さらに、子どもたちが平和を気づきにくい状況の中で、どのように平和の大切さを理解してもらうか検討が必要だろう。</p> <p>別の視点として、子どもたちの新たな教育として、相手を思いやる、多様性を理解するなど、人権に係る事項を重点的に発信する必要がある。端的にキーワードと中心に発信できるとよい。</p>
委員	<p>渋谷区の基本構想の方向性を調べてみたが、渋谷らしいと感じた。</p> <p>目黒はどうするかという話だが、目黒らしさをキーワードに出すのか、人としての部分をキーワードにするのか、目黒を表面に出すものが生まれるのかどうか議論の必要がある。</p>
委員	<p>会の取り組み方、積み上げてきたところで全体が見えてきた気がし</p>

てよいと感じた。

目黒らしさとは難しい、私らしさとは何かという話になって、らしさなんてないのではと感じる。

全体に積み上げてきた中から、例えば、私達が生きていくビジョンが見えてきて、個人個人が尊重され、協調できている、全体に目配せができていく区であると感じた。

住区住民会議が理解されていないので、避難所の運営の内容など周知をしっかりとやらなくてはと感じた。

委員

今回の会議は、これまでの会議での意見を事務局が集約・整理して、中間のまとめとして作成し、皆さんどうでしょうか、ということをお聞きして、先に進めようというのがこの会議の目的ではないのか。これまでの会議の問題点を指摘しては何も進まないのではないのか。

委員

ここまで中間のまとめが出てきているので、ある程度将来像が見えてきたのではないのか。平成 12 年に前回の基本構想が出て、20 年近く経っているが前回の計画で想定したものと、今現在の状態というのは予想した通りなのかどうか確認したい。

時代は変化が激しい、これからの 10 年後は目指すべき将来像とは違っている可能性もある。施策の人権、防災、子育て、高齢化、スポーツ、様々な分野の項目があり、財源がネックになるため、将来を見据えた上で、必要な項目、優先順位を予算配分など精査して進めてほしい。住みやすい目黒にするための実効性の部分も含めて、全て思い通りにできるのではなく、多少は厳しいことも区民に伝えてほしい。

委員

自分の伝えてきたことや皆さんの意見を盛り込んでいただいたという印象を受けている。

これまで積み上げ方式の議論だったからこそ幅広い分野を学べた。

残りの期間、これをもとに、目黒区をどうしていきたいか改めて考えていければよいだろうと感じた。

委員

前回基本構想がどのようにできたか不明だが、平成 12 年の「ともにつくる緑豊かな人間のまち」の基本構想であれば 20 年後そのようなイメージで区議会に出席していた。

区有施設についても計画を進めるため、環境が変化するにあわせて様々な行政需要を形にする必要がある。20、30 年後を見据えながら、

	<p>2040年に迎える高齢化社会、人口減少社会に備え、地域で支え合ってやっていくことがキーワードになるだろう。20年後の将来を見据えてやっていかなくてはならないと感じた。</p>
委員	<p>2040年の社会全体に明るい兆しが見えていない、目黒のキャッチフレーズから明るい未来が見えるようになるとよいだろうと感じた。</p>
委員	<p>区民一人ひとりにおちたときに、20年後の目黒をどれだけ我が事意識として捉えてくれるのか、パブリックコメントを実施しても意見が上がらないということもあるので、我が事として意識を持てるような工夫をしてほしい。みんなが共感できる、持続可能な基本構想にしたい。</p> <p>様々な時代の変化に対応していくにはコストもかかる、そうしたことも考えて実施いただきたい。</p>
委員	<p>中間のまとめ案については特段ありません。</p> <p>目黒の将来像、キャッチフレーズは別日で話し合うのか。</p>
区側	<p>次回会議の議題とする予定である。</p>
委員	<p>前回の基本構想のキャッチフレーズを見て、そこからブレイクダウンしていくことは難しいと感じた。</p> <p>キャッチフレーズをつくり、その上で、分野の見直しという議論ができるとうい。</p>
委員	<p>まちづくりというのは月日の積み重ねで20年後があるのだろうと感じた。まちづくりの分野は様々で、1つ1つについて将来像の議論をするのは必要だと感じる。</p> <p>一方で、例えば長期計画の体系について、3層構造に賛成だが、20年間を見越した基本構想というのは自治体のまちづくりの基本的な理論や将来像についても示すべきである。そのあたり議論がなされなかったことは残念に感じた。</p> <p>20年後に向けて、何を根にして、基本理念として掲げるかを考える必要がある。人権・平和を尊重、環境、住民自治は今後も盛り込むべきであるが、新たに福祉の増進を加えたらよいだろうと感じている。そうした部分について、中間のまとめの中でも、目指すべき将来像に</p>

<p>会長</p>	<p>ついて審議会案を示すことができたならよりよかったと感じている。最終答申として今後しっかり議論をしていきたい。</p> <p>欠席の委員にも意見を伺いたい。全員参加の審議会として、出席者全員の発言は頂戴できたのはよかったと感じた。今日の議論を含めて修正を行っていく。</p> <p>区民の意見も広くいただき、区民がつくる目黒区として意見が反映されていくようにしたい。</p>
<p>区側</p>	<p>[長期計画審議会委員の再任等のお願いについて]</p> <p>※資料6を説明</p>
<p>会長</p>	<p>次回審議会は2月17日(月)18:30~である。</p>
<p>会長</p>	<p>[閉会]</p> <p>これにて本会を閉会する。</p> <p style="text-align: center;">以 上</p>